

# 令和08年6月（第2回）岩倉市議会定例会

## 一般質問通告要旨

### 1 梅村 均 議員

- 1 増加傾向にある本市の外国人転入者への対応は十分か
  - (1) 転入転出の時期であったが、3月、4月の本市への外国人転入転出の状況は。直近の人口に占める外国人居住の割合や実態は。
  - (2) 岩倉市で暮らす生活ルールやマナーについて何を伝えているか。予防的対応の意識で丁寧に伝えているか（その場で理解できている状況か）。
- 2 桜まつりにおける迷惑駐車対策を
  - (1) 迷惑駐車の様子はどうか。
  - (2) 駐車禁止等の表記に外国語表記が必要ではないか。
- 3 小中学校教員の働き方改革（負担軽減）を踏まえた学校行事や事務等の変化は適切か
  - (1) コロナ禍前と比較して、学校行事や事務において、削減や簡素化したものはあるか。例：運動会（体育大会）、文化祭、宿泊行事、学芸会、合唱、遠足、部活動、PTA行事など
  - (2) 削減や簡素化した行事の子どもたちの反応はどうか。
  - (3) コミュニティスクール制度に対する教員の関わりはどのようなか。
- 4 山車文化の継承に向け、会員募集や行事参加募集の支援が何かできないか
  - (1) 山車巡行の告知は様々されているが、例えば、広報いわくらや市ホームページに山車巡行参加者募集や山車保存会会員の募集告知ができないものか。  
（できれば問合せ先も公的機関を加えることができないものか）

### 2 関戸 郁文 議員

- 1 自治体DXにおける業務改善効果と今後の活用について問う
  - (1) 現在進めているDX施策について、どのような効果が生じているのか。
  - (2) 業務時間の削減効果をどの程度把握しているか。また、削減時間を数値として把握することが難しい場合、今後どのように改善効果を把握し、検証していくのか。
  - (3) DXにより効率化された業務や削減された時間を、市民サービス向上としてどのようにしていく考えか。
  - (4) DX施策の中でも特にAIを活用した業務改善が急務だと考えるが、現在のAIに対する取組と職員への普及、教育はどのようなか。
- 2 中東情勢における原料不足により、本市の施策にさまざまな影響があると思うがどのように対応しているのか

- (1) 他の自治体でゴミ袋が不足しているとの報道があるが、本市での状況はどうか。
- (2) 今回のような原料不足等の理由により、指定のゴミ袋が製造できなくなることが起こることも考慮し、市販の透明または半透明のゴミ袋に市が発行したシールを貼るという形に変えることも考えられるが、本市の見解は。
- (3) 原材料費が上昇し、建設工事等にも影響していると思われる。契約をしている建設工事について、どのように対応するのか。

### 3 塚崎 海緒 議員

#### 1 道路交通法改正を踏まえた自転車の安全利用について問う

- (1) 道路交通法改正に伴う自転車利用ルールの変更や取締り強化について、市はどのように認識しているか。
- (2) 逆走、一方通行、一時停止等、自転車利用者が違反となりやすいルールについて、市民や中高生へどのように周知しているか。
- (3) 高齢者や保護者などから、自転車利用に対する不安や混乱の声をどのように把握しているか。
- (4) 交通安全教育や啓発について、学校、PTA、警察等とどのように連携しているか。
- (5) 県による自転車通行環境整備も進められる中、自転車活用推進都市として、安全に安心して利用できる走行環境や分かりやすい表示整備、周知啓発をどのように進めていく考えか。

#### 2 ナフサ不足等による地域経済への影響について問う

- (1) ナフサ不足や価格高騰による地域経済への影響を、市はどのように認識しているか。
- (2) 製造業や中小事業者への影響把握をどのように行っているか。
- (3) 物価高騰や供給不安が、市民生活や地域活動へ与える影響をどのように認識しているか。
- (4) 公共施設改修や公共事業への影響について、どのように把握しているか。
- (5) 国や県との連携を含め、市民生活や地域経済を守るため、今後どのように対応していく考えか。

#### 3 公共施設利用における受益者負担の考え方について問う

- (1) 公共施設使用料見直しの基本的な考え方はどうか。
- (2) 施設老朽化や改修状況、利用環境をどのように評価した上で、使用料改定を行ったのか。
- (3) 公共施設利用料の見直しは、市民活動や地域コミュニティへ与える影響をどのように認識しているか。
- (4) 公共施設予約システムやスマートロック導入後の運用課題について、どのように把握しているか。
- (5) 防災や地域コミュニティの維持も含め、受益者負担と誰もが利用しやすい公共施設運営をどのように両立していく考えか。

#### 4 谷平 敬子 議員

##### 1 RSウイルスワクチンの接種について

- (1) RSウイルスについてどのように認識しているか。
- (2) 「RSウイルス母子免疫ワクチン」の安全性について、どのような検証が行われているのか。
- (3) 本市の肺炎対策は、どのようなものか。
- (4) RSウイルス感染症の高齢者への影響について、どのように認識しているか。
- (5) 高齢者に対するRSウイルスワクチン接種への費用助成への検討は。

##### 2 自転車青色切符の導入と安全運転の推進について

- (1) 自転車安全利用五原則とは何か。
- (2) 青色切符制度導入について、どのように認識しているか。
- (3) 青色切符制度について、子どもへの安全教育はどのように行われているか。
- (4) 市独自の「自転車運転免許証」交付事業はできないか。
- (5) 自転車安全利用講習会の修了者にヘルメット購入費の助成はできないか。
- (6) 自転車通行帯の整備予定はどのようなか。

#### 5 片岡 健一郎 議員

##### 1 岩倉市青少年宿泊研修施設希望の家の跡地利用について

- (1) 跡地利用についてどのような検討がされたのか。
- (2) 都市公園として整備する検討の結果、どのような案になったのか。また、岩倉市としての考えはどのように反映された案なのか。それは岩倉市としての意思を持った公園整備案になっているのか見解を問う。
- (3) 民間活力の導入の可能性についての調査・検討をするとあるが、具体的に民間事業者がどう関わることを想定しているのか。また、その事業者の基準はどう考えているのか。
- (4) 今後の検討はいつまでに誰がどのように進めていくのか。

##### 2 北部保育園・仙奈保育園の統合及びあゆみの家の複合化に伴う跡地利用について

- (1) 北部保育園の跡地利用について最新の検討状況について問う。
- (2) 仙奈保育園及びあゆみの家の跡地利用についての最新の検討状況について問う。
- (3) これらの跡地利用を、賑わいを創出できるような特色ある都市公園の整備に活用することについて市の見解を問う。

##### 3 岩倉東小学校について市の考えを問う

- (1) 岩倉市公共施設再配置計画案では規模縮小の検討もされている東小学区だが、施設に関する最新の市の考えはどうか。
- (2) 大規模改修を実施するという事は、今後、最低何年の供用を想定しているのか。
- (3) 今後、人口減少などを踏まえ、他の学校との統合を含めた検討をしていくべきだと考えるが市の見解はどうか。

## 6 梶谷 規子 議員

- 1 あまりにも急な放課後児童クラブの民間委託は子どもにとっても、職員にとっても問題ではないか
  - (1) 民間委託に至った目的と経過は。
  - (2) 説明についての不十分さをどう考えているのか。
  - (3) 市の直営と民間委託との違い（費用面・人員・運営体制等）をどこで、どう分析、検討したのか。
  - (4) 子どもたちの安全性・発達保障・支援の質をどのように担保するのか。
  - (5) 保護者への説明をどう行っていくのか。
  - (6) 職員の雇用はどうか。処遇についての問題はないか。職員の専門性は活かされるのか。
  - (7) 職員の意見をどう聞いてきたのか。今後、説明をどう行っていくのか。
  - (8) 行政責任をどう維持するのか。
  - (9) 定員オーバーの際、図書室等を利用し、対応しているが、委託になればできないのではないか。
  - (10) 障がい児への対応は。単なる預かり事業でなく、子どもの生活と成長・発達を支える重要な場であるが、どうか。
  - (11) 事業者選定をどのようにしていくのか。選定にあたっての透明性の確保は。
  - (12) 利益優先にならない仕組みはあるのか。
- 2 八劔町の開発について問う
  - (1) 行政協議はどうすすんでいるのか。
  - (2) 開発予定地西の道路（市道豊田岩倉線）は、今でも渋滞が多く、渋滞を回避するため、一宮春日井線を降りてきた車が豊田岩倉線の西の生活道路にも入り込み、住民が危険との不安の声があるが、一宮春日井線の小牧への整備が完成するまで造成工事を見合わせるよう意見できないか。
  - (3) 市の財産である市道を残すよう要望するがどうか。
  - (4) 戦争の後方支援につながる武器・兵器等の材料などの生産・物流に係るような企業を誘致することのないように要望するがどうか。

## 7 井上 真砂美 議員

- 1 岩倉の宝である「史実」を正確に残すことについて
  - (1) 岩倉町史（昭和30年発行）、岩倉市史（昭和60年発行）、岩倉市史現代版（平成18年発行）で史実がまとめられている。再販はどのようなか。
  - (2) 下田南や畑田遺跡など近年明らかになってきた考古学的発見についてなど、市史にどのように反映していくのか。
  - (3) 岩倉城炎上や郷土の英雄「山内一豊の家系図」においてなど、県史や他の書籍との整合性をとりたい。市史を修正または追加発行をすべきではないか。
  - (4) 市民向けの読みやすい歴史冊子を作ってはどうか。
  - (5) 岩倉の歴史をコンパクトにまとめたデジタル版市史を作成してはどうか。
  
- 2 市観光・イベント「見どころ・名物・歴史」で紹介している「船橋楽器資料館」の活用について
  - (1) 「音楽のあるまち いわくら」の象徴である「船橋楽器資料館」の価値をどのように捉えているのか。
  - (2) 持ち主と価値観を共有し、鑑賞から活用する資料館としての運営を考えてはいかがか。
  - (3) 来館客数や収益性を鑑みると指定管理者制度の一つである「地域型指定管理」にて、文化団体や学校、NPOが関わる市民参加型の運営体制を整え、持続可能性を高めてはいかがか。
  - (4) 「地域型指定管理」などを活用し、持続可能な資料館として考えてはいかがか。
  - (5) 音楽イベントや学校教育と関連させ、利用価値を高めることは可能か。
  - (6) 楽器の劣化や楽器の整理を考え、デジタルアーカイブ化はいかがか。
  
- 3 SNS使用に関する小中高生等への「生徒指導」について
  - (1) 児童・生徒のSNS使用に対する善悪の判断をどのように指導しているのか。
  - (2) 具体的に、子ども自身が闇バイトや「匿名・流動型犯罪グループの犯罪」に狙われる側にもなり得るといような指導が必要ではないか。
  - (3) 豊明市や香川県さらに海外ではオーストラリアのようなSNSの年齢制限やスマホの利用時間の制限などをどう考えているのか。
  - (4) SNS利用の良さや心配事を学ぶ勉強会はどのように開催されているか。

## 8 鬼頭 博和 議員

- 1 市としての総合的な「子どもに対する安全政策」について
  - (1) 文部科学省が導入を進めている「生命（いのち）の安全教育」（性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないための教育）について、どのように捉えているか。また、市内小中学校での実施状況はどのようなか。
  - (2) 「生命の安全教育」に対する教職員への周知・啓発はどのようなか。
  - (3) 愛知県内では、CAP（子どもへの暴力防止プログラム）を委託事業として実施している自治体があるが、このような事業をどのように捉えているのか。

- (4) CAPのような外部専門機関を活用することで、教職員の負担軽減につながると考えるが、市の見解はどのようなか。
- (5) CAPの特徴である「子ども向け+大人向け（保護者・教職員）ワークショップ」を、市の安全教育の取組として検討してはどうか。

## 2 個別避難計画の作成推進等について

- (1) 避難行動要支援者に対する個別避難計画の作成率は現在のどの程度か。
- (2) 計画作成において、福祉専門職・地域包括支援センター・自治会等との連携体制はどのようなか。
- (3) 避難支援者（民生委員、自治会等）の危機管理能力向上の研修は実施しているか。
- (4) 高齢者等の要配慮者の避難支援として、指定一般避難所内に福祉避難スペースの設置を検討しているか。
- (5) 避難行動要支援者に対して福祉避難所の個別指定（事前マッチング）を進め、直接避難ができる体制を整えるべきではないか。

## 3 住宅の耐震化推進について

- (1) 本市の住宅耐震化率はどの程度か。
- (2) 耐震化が困難な世帯に対し、家具固定・簡易耐震化などの代替策をどこまで行っているか。
- (3) 住宅の耐震診断費として、愛知県は旧耐震基準に加え、2000年5月以前の新耐震基準を補助対象に追加している。本市においても、追加を検討するべきではないか。

## 4 災害関連死を防ぐための対策について

- (1) 市として、非常食・水と同様にトイレ備蓄の啓発について、どのように行っているか。
- (2) 在宅被災者、特に要配慮者への支援（見守り、医療・福祉連携、生活支援）についてどのような検討が行われているのか。
- (3) 福祉事業所のBCP策定率はどの程度か。未策定事業所への支援はどのようなか。

## 9 大野 慎治 議員

### 1 自転車の交通反則通告制度（青切符）について問う

- (1) 自転車の走行に対する課題について問う。
- (2) 県道岩倉駅西線及び新柳通線等の自転車道の整備を急ぐべきではないか。

### 2 クビアカツヤカミキリの被害について問う

- (1) 五条川の桜の被害状況は。
- (2) 伐採ではない対策が必要ではないか。

### 3 県道浅野羽根岩倉線の自然石樹脂舗装されている歩道について問う

- (1) 現状の認識は。

(2) 劣化がひどいため、アスファルト舗装に変えるべきではないか。

#### 4 道路の安全性の強化について問う

(1) 歩道が暗いとの指摘についての認識は。

(2) 対策をどのように考えているのか。

#### 5 公園管理の樹木管理について問う

(1) キョウチクトウの危険性は。

(2) 周知と対策をどのように考えているのか。

### 10 日比野 走 議員

#### 1 令和8年3月に行われたゴミハントについての一般質問の振り返り

(1) ゴミハント事業は法定受託事務か。

(2) ゴミハント事業は法定受託事務ではないにもかかわらず、規定変更が困難とされる理由を、法的根拠と内部運用の双方から説明を求める。

(3) 規定変更ができないと判断した意思決定プロセスを明らかにして欲しい。

(4) 規定変更に伴うリスク評価を行ったのか。行った場合は内容を、行っていない場合はその理由を示して欲しい。

(5) 他市では同様の事業で柔軟に規定運用している例があるが、本市がそれを採用できない理由は何か。

(6) 規定変更ができない場合、ゴミハント事業の継続性や発展性になにかしらの制約が生じると認識しているか。

(7) 「崖で子どもが走り回ると危ない」との発言があったが、実際の地形は走り回れるほど緩やかではない。どのような地形イメージを前提に判断したのか。

(8) 現場確認は誰が、いつ、どの範囲を行ったのか。写真・図面・傾斜角など、客観的データに基づく発言であったか。

(9) 仮に「走り回れるほどの崖」という認識が誤っていた場合、リスク評価や安全対策の前提が誤っていたことになるが、その点をどう検証するのか。

(10) ゴミハント事業の安全対策は、地形の実態に即したものになっているのか。過剰・過少のいずれの可能性も含めて見解を伺う。

(11) ゴミハントで河川の清掃を実施しない区域を、他の2事業で補うとの説明があったが、どのような体制でカバーするのか。

(12) 人員・参加者数・作業時間・清掃範囲など、2事業の現状能力で本当に補完可能なのか、具体的な根拠を示してほしい。

(13) 補完するとした場合、従来の2事業の負担増はどれほどか。参加者の高齢化や団体への負担をどのように評価しているか。

(14) 予算増や人員増を伴わない場合、清掃品質の低下や未回収区域の発生が懸念されるが、そのリスクをどう管理するのか。

## 11 堀江 珠恵 議員

### 1 多文化共生における地域ルールと相互理解について

- (1) 多文化共生施策では、外国人住民への生活支援の情報発信、多言語対応をしている。だが、地域文化やルールの理解、地域社会の一員として適切に行動できる仕組みが急激に増えたことにより教育の枠組みが追いついていないと感じるが、この点を本市はどのように認識しているのか。
- (2) 令和2年改定の総務省プランが示す、外国人住民による地域の活性化、積極的な参画という方針が岩倉市総合計画にも盛り込まれている。これを踏まえ、外国人住民が、日本文化、日本社会、地域のルールを理解した上で、地域の一員として行動できるよう本市は今後どのように進めていくのか。
- (3) 国際理解とあるが、本市の歴史、文化、産業などを理解し、日本や地域に親しみや尊重の気持ちを持つ外国人住民を増やしていくことが、健全な多文化共生の実現と、地域活性化の双方に資すると考えるが本市の見解は。
- (4) 全国的には外国人住民のトラブルによる深刻な課題が浮き彫りになっている。このような事例を本市はどう認識しているのか。
- (5) 他の自治体のように住民生活の崩壊や摩擦、市民の「安全・安心」の損失を招くおそれがあると今後考えられるが、市の見解は。
- (6) 市民団体が日本語クラスなどをボランティアで運営されている。今後、持続可能な運営をしていくためには、雇用する企業が協賛金の出資も必要と考えるが、市の見解は。

### 2 子どもの命を守る熱中症対策「個人任せ」から「環境整備」について

- (1) 毎年熱中症対策が示されるが、それを踏まえ今年度はどのように対策をしていくのか。
- (2) 教室や体育館に空調が完備されているが、水分補給の声掛けはどのタイミングで行っているのか。また、中学生の部活動時はどのように声掛けをしているのか。
- (3) 水筒に水分がなくなった時、学校はどういったものを提供しているのか。
- (4) 暑い時期、大きい水筒に変わるが、下校時には無くなることもある。学校は児童・生徒に声掛けをしたり、残量の確認をしているのか。
- (5) 大きな水筒を持っていて、転倒してけがをした事例があるが、本市はそのような事例はあるのか。
- (6) 小牧市で導入されている給水スポットは、下校時には冷たい水が飲め、なおかつ水筒を小さくでき、かばんに入れて登下校できるメリットがある。本市でも各学校に導入できないか。

## 12 水野 忠三 議員

### 1 本市における外国人に対する生活保護の現状と適正な制度運用に向けた課題について問う

- (1) 本市における外国人に対する生活保護の全般的な現状等について認識は。

- (2) 生活保護法の適用対象について、「国民」とは日本国民を意味するとした平成26年の最高裁判決、及び人道上の観点から「当分の間」日本人に準じて保護を行うとした昭和29年の厚生省通知に基づき、現在、本市において外国人への生活保護は「法定受託事務そのものではなく、国の通知に基づく行政措置」として運用されているとの理解でよいか。
- (3) 本市における近年の在留外国人数全体の推移と、把握している範囲における外国人被保護世帯数、及び扶助費総額の推移について、実状は。
- (4) 被保護世帯全体に占める外国人世帯の割合やその財政的影響について、全国平均や県内他自治体と比較した際の本市の特徴や傾向、及びケースワーク体制への影響等についてどのように分析しているか。
- (5) 昭和29年の厚生省通知等には、生存権保証の責任が第一義的にはその者の属する国家が負うべきとの観点から、必要に応じて本国代表部や領事館等へ保護・援護の可否を確認する旨の規定があるが、本市における現在の具体的な確認実務の手順や判断基準は。
- (6) 難民申請者、DV被害者、個別の出自に関わる事情など、人道上の配慮や個人情報保護、ケースワーク上の守秘義務等が生じる事案において、実務上どのような点に留意して適切な確認が行われているか。
- (7) 適正な保護の決定・実施にあたっては日本人・外国人を問わず適正な資産調査が必要であると考えますが、国外にある金融機関の口座や資産等の把握については法的な調査権限の制約などから確認が困難な場合があるとされている。この国際化に伴う現行制度上の限界や課題について、認識は。
- (8) 本市において、把握している範囲での申請に対する却下・取下げの傾向など、適正な決定プロセスを確保するための現状の取組等は。
- (9) 「永住者」等の在留資格に関する国のガイドラインにおいて示されている経済的自立の要件と、地方自治体の現場において長期間にわたり保護を受給せざるを得ない世帯が存在するという実態との整合性について、国と地方の役割分担の観点からどのような課題認識を持っているか。
- (10) 行政側がデータ未集計で具体的な数値等の答弁等を拒否せざるを得ない事態などを避けるため、今後とも「適正な制度運用・実態把握」を目指し、国の解釈や人権尊重・ケースワーク実務（難民やDV対応等）等にも配慮しつつ、データ集計等をさらに充実させていくべきと考えるが、見解は。
- (11) 本制度は70年以上にわたり国レベルでの抜本的な見直しが行われていない暫定的な通知を根拠としていることから、一自治体の裁量だけで解決できない構造的な課題を抱えていると考える。今後、制度の明確化や地方の財政負担のあり方、実務上の課題解決に向けて、全国市長会などを通じて国に対して制度改善を要望していく考えは。

## 2 本市における男女共同参画の考え方について問う

- (1) 市民一人ひとりが性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮でき、生きやすい社会の実現に向けた本市の現在の進捗状況及び課題認識は。

- (2) 女性活躍や格差是正に向けた数値目標（女性管理職割合の引き上げ等）を進める一方で、自らの意思で「家庭に軸足を置く」「管理職を希望しない」といったライフスタイルを選択する意思も等しく尊重されるべきと考えるが、「数値目標の推進」と「市民の自由な生き方・働き方の尊重」との調和をどのように図っていくか。
- (3) 本市が実施する男女共同参画や、固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発事業・セミナー等について、市民への「一方向的な価値観の提示」とならないよう、事業内容の公平性や客観性をどのように担保していくか。
- (4) 多様な家族観や伝統的な価値観を大切にしている市民一人ひとりの思いを否定しない行政姿勢が重要であると考え、すべての市民に寄り添った丁寧な啓発・運営を行うために、行政として現在配慮している具体策等は。
- (5) 本市で実施している市民意識調査などの結果を、どのように男女共同参画施策へ反映させていくか。
- (6) 本市の男女共同参画事業などに対して、仮に、市民から「自分の価値観が否定されたように感じた」等の懸念や疑問の声が寄せられた場合、行政としてどう真摯に受け止め、検証を行う体制を整えているか。
- (7) 男女共同参画を巡るテーマには多様な視点が存在するため、一方的な視点のみから発信するのではなく、市民の丁寧な合意形成を図るべきと考えるが、今後の事業検討等に当たり、多様な立場の意見交換ができる「パネルディスカッション形式」などを取り入れ、バランスに配慮した柔軟な事業運営を行う考えは。
- (8) 行政が追求すべきは、性別に関わらず誰もが自らの意思で納得して生き方を選択できる「機会の確保（入り口の障壁撤廃）」であると考え、実質的な機会の確保に向けた取組を進める中で、結果としての数値のみを追い求めるのではなく、市民の自由意思をありのままに受け止める姿勢について、見解は。
- (9) 地域でともに支え合う岩倉市において、あらゆる市民（女性、男性、性的マイノリティ等）がそれぞれの価値観を大切にしながら、安心して幸せに暮らせるまちづくりを進めるべきと考えるが、これからの本市における男女共同参画施策に対するビジョンと決意は。

### 13 木村 冬樹 議員

- 1 中東情勢の悪化による物価のさらなる高騰と石油由来物資の不足の本市への影響をどう見ているか
  - (1) 生活応援クーポン券配布事業における配布方法や換金方法に課題はなかったか。
  - (2) 石油由来物資の不足による市民生活や市内事業所の営業、本市の事業への影響をどう把握しているか。
  - (3) 早急に必要な対応を検討・実行すべきと考えるが、本市の見解はどうか。
- 2 難聴高齢者補聴器購入費助成金の丁寧な周知を求める
  - (1) 周知方法とこれまでの実績を確認したい。
  - (2) 申請手順の誤りにより助成金を受けられなかった市民はいるのか。
  - (3) 対象が難聴高齢者ということなので、より丁寧な周知を求める。

- 3 ごみ減量化・資源化、ごみ適正処理における課題をどう考えているか
  - (1) ダンボールコンポストの事業の課題と発展方向をどう考えているか。
  - (2) 古紙と古着の日地元協力金の廃止の影響をどう把握しているか。
  - (3) 稲沢市のふれあい収集を参考に、ごみ・資源出しでお困りの市民への個別回収を具体化できないか。
  
- 4 尾張地域を「戦争国家づくり」の後方支援の拠点にしてはならない
  - (1) 尾張北部地域の道路網の整備や物流センターの誘致への国・県の考え方及び関与はどうなっているか。
  - (2) 市内事業所で武器の製造に関与しているところはあるのか。
  - (3) 尾張北部地域の大型開発を「戦争国家づくり」の後方支援の拠点整備という視点でも捉え直す必要があるのではないか。